

第3章

誰もが快適で 暮らしやすいまち

基本施策 13	中部縦貫自動車道の整備促進	50
基本施策 14	幹線道路網の整備促進	52
基本施策 15	人にやさしい道路環境の創出	54
基本施策 16	快適な生活関連の基盤整備	56
基本施策 17	快適な住宅の整備	58
基本施策 18	高度情報化の推進	60
基本施策 19	公共交通手段の確保	62
基本施策 20	雪に強いまちづくり	64



基本施策13 中部縦貫自動車道の整備促進

現状と課題

大野市にとって中部縦貫自動車道は、広域交通の円滑化や文化・観光資源を生かした地域振興や産業経済の発展、地震など災害時の緊急輸送・救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保のために真に必要な道路であり、まさに「生命の道」「生活の道」「希望の道」です。

今後も、永平寺大野道路の早期完成と大野油坂道路の全線事業化に向けた取り組みを進め、全線開通させることが必要です。

また、大野市では、大野市外からの来訪者を受け入れ、もてなすための態勢が整いつつある中、中部縦貫自動車道を利用する観光客を取り込んでいくため、越前おおのの魅力を適時かつ確に発信し、大野市内に回遊させることができるパーキングエリアやシステムづくりが必要となっています。

施策1 中部縦貫自動車道の整備促進

中部縦貫自動車道永平寺大野道路の勝山インターチェンジから大野インターチェンジ間の平成24年度の供用開始と、福井北インターチェンジから大野インターチェンジ間の平成28年度までの供用開始について、関係機関に強く働き掛けます。

また、大野油坂道路のうち、事業化された大野東インターチェンジから和泉インターチェンジ間の供用開始までのスケジュールの明確化と、残る区間の早期事業化を強く要望していきます。

主な事業

- 大野油坂道路整備促進連絡協議会を中心にした関係機関への要望活動
- 大野油坂道路の円滑な事業推進を図るための関係地区との調整

施策2 越前おおのまるごと道の駅構想の推進

中部縦貫自動車道を利用する人が、観光スポットや歴史、食文化などに興味を持ち、大野市内へと導かれるように、大野市全域を「越前おおのまるごと道の駅」と位置付けます。

このため、パーキングエリアを発着点として大野市内を回遊することができるよう、越前おおのまるごと道の駅構想の実現に向けて取り組みます。

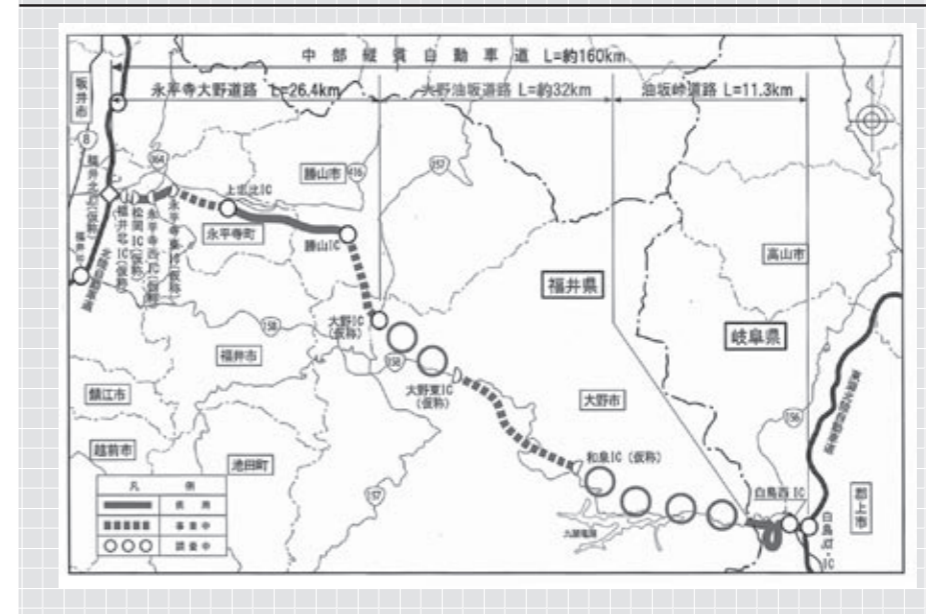
主な事業

- 越前おおのまるごと道の駅構想実現のためのパーキングエリア誘致活動

成果指標

指標	内容	平成22年度現状	平成27年度目標
中部縦貫自動車道大野油坂道路の速やかな事業化	未事業化区間の1日も早い事業化	計画区間	事業化
越前おおのまるごと道の駅構想の策定	越前おおのまるごと道の駅構想の策定	未策定	策定

中部縦貫自動車道路線図



小矢戸トンネル説明会





基本施策14 幹線道路網の整備促進

現状と課題

国道158号は、通勤や物流、防災、救急救命上、大野市と福井市を結ぶ重要な道路であり、朝夕の渋滞緩和や安全・安心の確保のため、1日も早い整備が求められています。

国道157号大野バイパスは、インターチェンジから市街地への交通を分散導入させるとともに、スムーズに中心市街地へ誘導するために重要であり、中部縦貫自動車道の供用開始に併せた整備が必要となっています。

国道476号西部アクセス道路は、福井方面からの交通を中心市街地へ誘導するために重要であり、早期の整備が望まれています。

また、大野市内の主要地方道と一般県道についても改良率が低く、広域観光や交流促進のためにも早期の整備が望まれています。



国道158号整備促進大会

施策1 国道158号の整備促進

国道158号奈良瀬・境寺バイパスの早期供用開始と境寺・計石バイパスの事業着手に向け、福井市と連携し、国と県への要望活動を展開します。

主な事業

- 大野・福井両市民参加による整備促進大会の開催
- 活発な要望活動の展開

施策2 国道157号大野バイパスの早期整備促進

中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジから大野インターチェンジ間の平成24年度の供用開始に併せ、国道157号大野バイパスの整備促進を図ります。

主な事業

- 早期整備に向け県と連携を強化
- 関係住民との調整

施策3 国道476号や主要地方道などの整備促進

国道476号西部アクセス道路は、犬山交差点から亀山西までは未着手であり、早期整備を県へ要望します。

また、主要地方道松ヶ谷宝慶寺大野線と大野勝山線、各一般県道の整備促進を図ります。

主な事業

- 西部アクセス道路、主要地方道、一般県道の整備促進を県へ要望

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
国道158号境寺・計石バイパスの事業化	境寺・計石バイパス約5.0km間の事業着手	未着手	事業化
西部アクセス道路の整備	西部アクセス道路の事業着手	未着手	事業化



基本施策15 人にやさしい道路環境の創出

現状と課題

従来から、市民の道路に関する要望が多いため、今後も適切な管理と整備を推進していく必要があります。

市道には老朽化などによる損傷が見られ、改修が必要な路面や橋なども多く、対策が急務となっています。

また、いまだバリアフリー化がされていない歩道が多く、市民の安全通行が確保されていないため、誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン*の考え方を取り入れた整備が求められています。

さらに、自転車利用者の通行の際に歩行者との接触や段差による事故の恐れがあることから、自転車専用の通行空間の整備が求められています。

施策1 生活道路の管理と整備

利便性の高い生活道路を確保するため、市道の適切な補修管理に努めるとともに、市民の要望や重要度を踏まえ、計画的に通学道路や人家が連なる地区の生活道路の拡幅整備を行います。

主な事業 ●市道の改良整備

施策2 橋の長寿命化

市道に架かる橋の保全を推進するため、平成23年度に橋梁長寿命化*修繕計画を策定し、特に一級河川に架かる幹線道路の橋から順次修繕します。

主な事業 ●橋の長寿命化に向けた修繕計画の策定 ●橋の長寿命化のための修繕

施策3 誰にもやさしい道路整備

歩道幅員が1.5m以下の歩道をバリアフリー化することで、誰にもやさしい道路整備を図ります。また、除排雪作業が円滑にできるように歩道と車道の境界ブロックを改善し市民や来訪者の冬期間の通行の確保を図るとともに、電柱などを道路敷地外や道路端に移設することで、歩行者の安全通行を確保します。

主な事業 ●歩道の改良整備

施策4 自転車走行空間の整備

自転車利用者の安全確保はもとより歩行者の安全確保を図るために、歩行者と自転車の利用空間の区別を図るとともに、自転車交通ネットワークの整備を推進します。併せて、利用者が多い場所では駐輪場を整備し、市民の自転車利用を促進します。

主な事業 ●自転車を活用したまちづくりへの取り組み

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
市道の改良率	市道の実延長に対する改良済みの延長の割合	81.4%	82.0%
橋梁補修数	長寿命化のための補修を実施した橋の数	0橋	5橋
歩道のバリアフリー率	歩道の総延長に対するバリアフリー工事を実施した延長の割合	31%	36%



バリアフリー工事を実施した歩道 (左) 市道六間線 (右) 市道七間六間線



基本施策16 快適な生活関連の基盤整備

現状と課題

上水道は、安全に飲用できる水を安定して供給することが使命であり、災害や緊急時などにも市民を守る生命線として重要です。大野市では、市街地の多くの市民が地下水を自家用井戸で生活用水として使用していることから、当面、上水道の急激な需要増加は見込めませんが、水需要の適正な把握と施設の有効利用を図り、市民の理解を得て上水道の加入促進と計画的な整備に努めていくことが必要です。

下水道は、快適な生活環境づくりと公共用水域*の水質保全の観点から、用途区域を中心とした区域では公共下水道事業、農村部では農業集落排水事業、それ以外の区域では合併処理浄化槽設置整備事業により整備などを行ってきました。今後も、これらの計画的な整備や機能維持、加入促進に努める必要があります。

中心市街地には公園が少ないため、子育てや地域住民の憩いの場となる公園の整備が必要です。また、災害時における避難所としての機能を有する公園などの整備も必要となっています。

施策1 水道の整備

新規加入に対する補助対策制度の創設により加入の促進を図ります。上水道では、安全で安心な飲料水の供給のため、計画的な整備を進めます。簡易水道についても、施設の適切な維持管理を行います。

主な事業 ●水道への加入促進 ●上水道の拡張 ●簡易水道の維持管理

施策2 下水道の整備

公共下水道の計画的な整備を行い、加入促進を図ります。農業集落排水の適正な機能維持に努めるとともに、整備後年数が経過した施設の機能強化に努めます。また、公共下水道や農業集落排水などの集合処理方式により整備する区域以外については、合併処理浄化槽の整備を促します。

主な事業 ●公共下水道の整備と加入の促進 ●農業集落排水の適正な維持管理 ●合併処理浄化槽設置への助成

施策3 小公園や防災機能を持つ公園などの整備

中心市街地内の低・未利用地を有効活用し、市民や観光客が気軽に休憩できるまち並みと調和の取れた小公園の整備を図ります。

また、防災機能を持つ公園などの整備を図ります。

主な事業 ●都市公園などの整備 ●防災機能を持つ公園などの整備

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
上水道の普及率	上水道対象区域の人口に対する上水道加入人口	19%	21%
公共下水道整備率	公共下水道の全体計画区域面積に対する整備済みの面積	41.8% (21年度)	68.5%
合併処理浄化槽設置数	補助金を交付した合併処理浄化槽の各年度までの累積設置数	1,364基 (21年度)	1,604基
一人当たり公園面積	都市計画区域内人口1人当たりの都市公園面積	12.9㎡/人	13.8㎡/人



上水道配水機器の点検



奥越ふれあい公園の遊具



基本施策17 快適な住宅の整備

現状と課題

高齢化が進む中、民間の賃貸住宅では、依然として高齢者対応の住宅が少ない上、高齢者世帯の入居が敬遠される傾向にあるため、高齢者が安全で快適に暮らせる住環境の整備が重要です。

また、空洞化が著しい中心市街地の活性化の一環として、まちなか居住に向けた取り組みが早急に求められています。

築年数が経過した木造の市営住宅が全体の3分の1を占めており、入居者の安全を確保することが必要となっています。

施策1 高齢化に対応する住宅の整備促進

高齢者向け賃貸住宅を供給する民間事業者に対し、その建設費と家賃低廉化に要する経費の一部を助成します。

主な事業 ●高齢者向けの優良賃貸住宅の整備促進 ●高齢者向け賃貸住宅の家賃補助

施策2 中心市街地の居住促進

中心市街地において優良な賃貸住宅を供給する民間事業者に対し、その建設費と家賃低廉化に要する経費の一部を助成します。

また、新規転入者に対して、定住のための住宅取得費の一部を助成します。

主な事業 ●地域の優良賃貸住宅の整備促進 ●町家暮らしへの支援 ●転入者の住宅取得などへの助成

施策3 公的住宅の施設改善

市営住宅の安全性を確保し入居者が安心して住める住環境を整えるため、建て替えに当たっては民間資本の活用を検討するなど、計画的に整備するとともに、長寿命化に向けた施設改善を推進します。

主な事業 ●市営住宅の改善 ●公的な賃貸住宅の供給推進

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
高齢者等賃貸住宅家賃助成件数	高齢者などに対する賃貸住宅家賃助成件数	34件	51件



高齢者向け優良賃貸住宅



市営住宅中挾団地



基本施策18 高度情報化の推進

現状と課題

情報通信分野における飛躍的な技術革新が進む中、ICT（情報通信技術）を活用した快適な市民生活や活発な事業活動が期待されています。

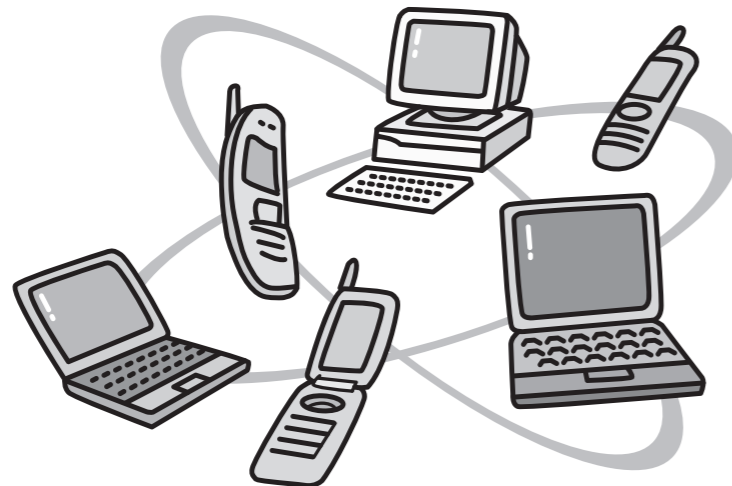
今後は、上庄地区や阪谷地区、和泉地区で未整備となっている光ファイバーなどの超高速ブロードバンド*環境の整備が求められています。

施策1 情報通信基盤の整備

国の動向を注視しながら、民間資本を活用した超高速ブロードバンド環境の整備を進めることで、大野市全域で高度情報化社会への対応を可能とします。

また、整備された超高速ブロードバンド環境での情報通信機器を活用した有効なシステムなどの導入により、市民の利便性の向上を図ります。

主な事業 ●超高速ブロードバンド通信網の整備

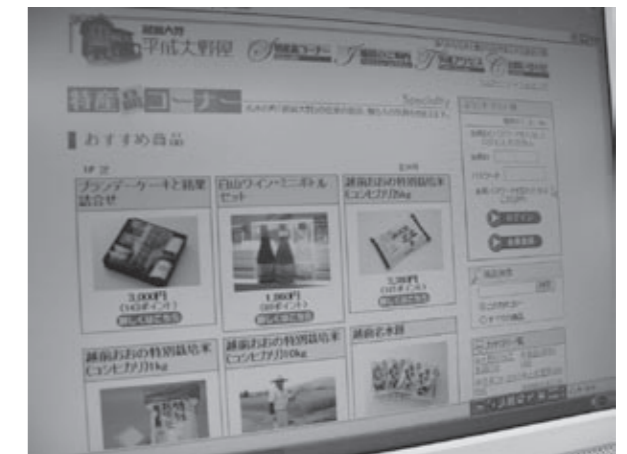


成果指標

指標	内容	平成22年度現状	平成27年度目標
超高速ブロードバンド整備地区	超高速ブロードバンド整備地区	大野、下庄、乾側、小山、富田の5地区	大野、下庄、乾側、小山、富田、上庄、阪谷、和泉の8地区



大野市職業訓練センターのパソコン教室



株式会社平成大野屋ホームページ内の通信販売サイト



下半原の携帯電話基地局



基本施策19 公共交通手段の確保

現状と課題

高齢者や学生などの移動制約者が日常生活を営む上で、また、観光客の移動手段として、公共交通は必要不可欠です。

このため、越前おおの地域公共交通総合連携計画を策定し、広域バスやJR越美北線に加え、まちなか循環バス、乗合タクシーなどの試験運行を行っています。

今後も、試験運行の結果などを基に、市民の豊かな暮らしを支える持続可能な公共交通体系の構築が求められています。

JR越美北線が、平成22年に開通50周年を迎えたことを契機に、鉄道の重要性、機能性、役割を市民が認識し、一人一人が「乗って残そう」という意識を持つことが重要です。

施策1 バス運行の充実

試験運行の結果を基に、利便性の高い運行体制や効率的な運行方法など、大野市に合った持続可能な公共交通体系を構築します。

また、継続的に運行効果の検証を行いつつ、使いやすい公共交通機関へと見直しを図ります。

主な事業

- 地域公共交通の再生
- 大野市内バス・乗合タクシーの運行
- 広域バス運行への支援



地域交通セミナー



ラッピング列車

施策2 JR越美北線の利用促進

JR越美北線の利用者を増加させるため、さまざまな利用促進策を実施するとともに、福井方面へのマイカー通勤者に対し、効果的な啓発活動を実施します。

また、知名度の向上を図るとともに、観光客の増加を図るため、ラッピング列車*の運行により話題性を付加します。

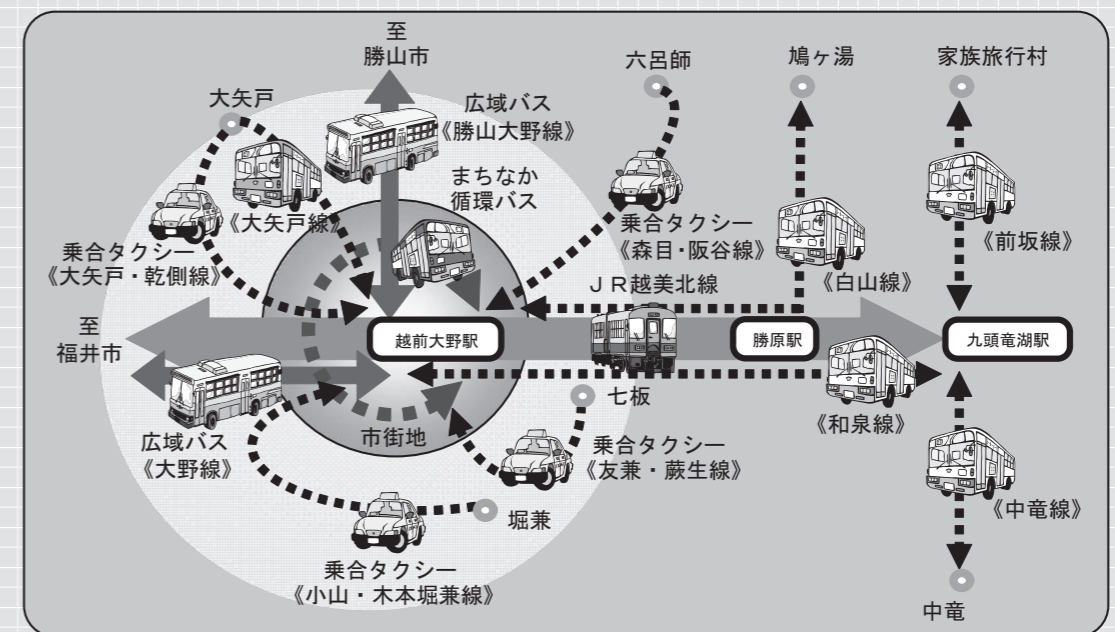
主な事業

- 越美北線の利用促進

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
大野市内バス乗客数	大野市内バスの年間乗客数	32,062人 (21年度)	44,000人
広域バス乗客数	広域バスの年間乗客数	334,847人 (21年10月~22年9月)	355,000人
越美北線の乗客数	越美北線の年間乗客数	338,000人 (21年度)	347,000人

将来公共交通体系図





基本施策20 雪に強いまちづくり

現状と課題

豪雪地帯である大野市では、積雪期における快適な市民生活と円滑な道路交通を確保するため、除雪車や流雪溝の整備、地域ぐるみによる雪下ろしの推進など、雪に強いまちづくりに取り組んできました。

しかし近年、高齢化の進展と核家族化の進行による高齢者世帯や、市街地の空洞化による空き家が増加しており、これらの除排雪対策が問題となっているため、地域ぐるみの助け合いによる除雪が求められています。また、除雪の迅速化や歩行者の安全確保が求められています。

流雪溝の整備は進むものの水量が不足し、機能を十分発揮できない水路が多く、大雪時には投雪で水路が詰まり、床下浸水が発生することもあり、適切な投雪のあり方も課題となっています。

施策1 雪に強い道路づくり

除雪車の更新や流雪溝の整備、道路改良を推進するとともに、今後も除雪体制を維持し、迅速で円滑な除雪作業ができる道路構造に改修します。

また、流雪溝に流れる水量の増加に取り組めます。

主な事業

- 除雪車の適切な更新
- 道路や河川の改良
- 新たな水利の確保に向けた取り組み

施策2 雪に強いまちづくりの推進

克雪市民会議*を開催し、雪を克服するため市や市民、関係機関などの協力体制を整えます。地域ぐるみの「共助」による屋根雪下ろしや除排雪を推進するとともに、作業者の確保に努めます。

主な事業

- 克雪市民会議の開催
- 共助による除雪の推進
- 地域ぐるみによる雪下ろしへの支援
- 屋根雪下ろし作業者の登録と紹介

成果指標

指標	内容	平成22年度 現状	平成27年度 目標
流雪溝の整備	整備延長	86,441m	87,500m
降雪期前の雪下ろし作業 者登録者数	降雪期前の雪下ろし作業 者登録者数	79人	120人



小型除雪車による除排雪



重要文化財旧橋本家住宅の屋根雪下ろし



越前おおの結ステーション



越前おおの結楽座ワゴン販売